

【巻頭言】

コンプライアンスについて考える



企画担当理事 川畷 剛(50 回生)

私は約 10 年ほど前に学友会の理事を拝命し今日に至るまで、理事会に出席するだけというように、理事の職責を十分に果たすことが出来ていませんでした。今回、「学友だより」に理事として巻頭言を書けとのことで、誠にお粗末な心根ですが、これでひとつ役目を果たせるかなと感じているところです。

さて、表題の「コンプライアンス」に関してですが、そもそもコンプライアンスは「法令や倫理を道理に従いそれをまもる」と定義されます。即ち、「悪いことをせず社会のルールを守る」と言い換えることが出来ます。

しかしながら、戦後の高度成長期の中で、政治、経済及び社会活動は、ややもすれば成長第一主義・利益第一主義が幅をきかせ、法律・法令さえ守れば、又は隠し通せば何をしても許されるという道徳心欠如の自己中心的な考えが蔓延してきました。戦後の四大公害事件を始めとして、粉飾決算及び不適切な会計処理（山一証券・ライブドア・東芝等）、食品偽装（雪印食品・船場吉兆等）、自動車メーカーのリコール隠しや燃費の不正表示、産業廃棄物処理業者による廃棄カツの横流しなど枚挙に暇がありません。まさに「企業の利益」が「社会の利益」よりも優先された結果です。また、某知事の政治資金使用の公私混同疑惑も、第三者の口を借りて「不適切な支出であるが違法では無い」と言わしめ、何ら反省も無く不問にして逃げ切りました。モラルハザードの極みです。

我が身を振り返って見ますと、約 30 有余年間、長浜赤十字病院にて現役時代を過ごしましたが、いつも心がけていたのは、自分がして欲しくないことは他者にしない、自分がして欲しいことを他者にしてあげるという「自利利他」の精神です。私は 10 代後半に大病を患い長期入院を余儀なくしていました。その時の様々な経験がその後の私の人生観に投影されたものと考えます。そして、放射線技師職は単に給料を得る手段の「辛い職場」では無く、自利利他の意識にて、社会貢献が高い遣り甲斐のある医療の一翼を担え使命感を持てる「楽しい職場」になるようにと、同僚らと共に目指してきました。

しかし、その後病院の規模が大きくなると共に、放射線科部の組織も大きくなり、また画像診断装置の飛躍的な進歩、IT 機器の急速な普及などで職場環境が激変してしまい、技術優先主義、組織秩序優先主義、効率優先主義などが台頭してきました。その中でいつの間にかコンプライアンスの優先順位が低下してきました。そのような環境の中で様々なハラスメントが蠢き出すのは必然です。パワハラやセクハラは加害者が恣意的に行うのは論外ですが、加害者が自覚せずに行うパワハラやセクハラが問題です。しかし、コンプライアンスの意識が高い職場では、社会常識や相手を思いやる心持が常に意識された環境ですから、たちまち「ハラスメントを許さない」という方向へ導かれて行くでしょう。

ここでまとめてみますと、コンプライアンスは以下の 3 本の柱から成り立っています。

- ① 「倫理規範」：社会の常識と倫理を守る。（近年、道徳心が衰退している恐れがある）
- ② 「社内規範」：社内規定やマニュアル等のルールを守る。（重要性が認識され難い）
- ③ 「法令規範」：法令を守る。（刑法上のリスクや民法上の賠償責任への認識不足がある）

退職後 5 年が経ち、地元の社会活動に参加したりして悠々自適の毎日を過ごしていますが、「自利利他」の精神を忘れず社会に貢献できれば幸いです。

以上